

マイナンバーカードの普及と活用

市民窓口事務

マイナンバーカード発行を進めるため、大型店舗などで出張申請を行いました。また、カードを使いコンビニで住民票などを取得するコンビニ交付も開始しました。

問 マイナンバーカード普及についてどんな取り組みをしたのか。

答 補正予算を組む前に郵送費から流用し、テスト的にイオンタウンふじみ野でマイナンバーカードの出張申請を行った。300名が申請し、手ごたえがあったのでその後予算を補正した。

また出張申請で記念品を配布したが、市役所の窓口にも非常に多くの人に来て記念品の不足が生じたため、消耗品の予算へ流用した。

問 コンビニ交付の実績は。

答 コンビニ交付は令和3年10月からスタートし、当初は全体の1.3%程度と見込んでいた。しかしニーズが



非常に高く、令和3年度の実績では住民票の交付率が8.3%、印鑑証明が9.2%であった。

わたしもひと言 マイナンバーカードは前に作りましたが、今日はポイントをもらいにきました。マイナンバーカードのことはよく分からないけど、家族にもつたいないと言われて、電子マネーのカードも作ってきました。いつもは現金しか使わないんですけど。



コンビニで住民票も取れるんですか。知りませんでした。子どもがいた頃は住民票を取ることもあったけど、今はありませんね。

マイナポイント支援窓口にて 高橋 孝子さん

振り込め詐欺から市民を守る

防犯推進事業

市では65歳以上の人がいる世帯に、振り込め詐欺対策電話機の購入費の半額(上限5千円)を補助しました。この電話機は呼出音が鳴る前に通話を録音することを相手にアナウンスし、詐欺被害を抑制する効果があります。

問 補助実績と効果は。

答 令和3年度は95件の申請があった。本市の被害件数は前年度と比較して4件増加し23件である。県でも56件増加し、全体として増加傾向である。電話機の購入補助のほか様々な啓発活動をしており、4件に抑えられたと認識している。

問 被害者の特徴は。

答 県警察のデータでは、被害者のうち65歳以上が92.8%。本市の被害者の平均年齢は78.5歳である。

問 他に実施した啓発活動は。

答 令和3年度は電話機に貼って注



注意喚起のポップアップフィルム

わたしもひと言



振り込め詐欺の電話は受けたことはないなあ。周囲でも聞かない。パソコンの詐欺メールは届くけど。電話の対策はしてないけど、自分は大丈夫だと思ってる。市から補助が出るのは知ってるけど、わざわざ変えようとは思わない。手続きが簡単なら考えるかな。

入間東部シルバー人材センター作品展にて 矢部 豊さん

意喚起するポップアップフィルムを作成し、65歳以上の単身高齢者世帯に民生委員が配布した。また市内のコンビニエンスストアや金融機関にも配布し、ATM機械などに貼付を依頼した。

夏休みに放課後児童クラブで給食を有料で提供

放課後児童クラブ管理運営事業

夏休み中には提供されていなかった学校給食が、放課後児童クラブに通う子どもたちに有料で提供されました。今後のサービスの向上について、議論が深められました。

問 アンケートを行った際、利用して良かったという人が97%だが、設問の内容項目は。

答 設問は5つ。1問目は、放課後児童クラブでの給食サービスを利用したかどうか。2問目は、利用したと答えた人に、夏休み中の弁当作りの負担軽減になったか。3問目では、利用した人について、1食当たり350円という金額だが、高かったか、安かったかを聞いた。4問目は、満足度を確認し、5問目は、来年度以降も利用されるかを聞いた。



問 良かったという3%の具体的な理由は。

答 現金の取り扱いができたので、納付書による

納付が不便であったということだった。今後改善を検討したい。

わたしもひと言 上の子が小学1年生です。夏休みの給食は利用しました。楽ですよ、箸やフォークと水筒を持たせるだけなので。夏休みの給食がない時期は、家で食べさせたり弁当を持たせたりしていました。不規則の仕事なので妻と交代で面倒をみました。また来年も利用したいと思います。

亀久保放課後児童クラブの利用者

わたしもひと言



川越江川の浸水被害を軽減

川崎調整池関連事業

平成29年台風第21号及び令和元年台風第19号により、川越江川下流域での内水浸水被害を踏まえ、川越市と共同で浸水被害の軽減を図ることを目的に調整池整備を進めています。

問 令和3年度中の進捗状況は。

答 測量業務、土質調査業務及び費用対効果の検討業務を実施した。測量業務は、計画している土地約1.5haの取得を予定していたが、測量の結果1.6haの土地が必要だと分かった。

土質調査は、ボーリング調査などの結果、地下水位が現状の地盤から50cmから1m程度から出てくること分かった。また、30m下に支持層があることが分かったので、そこまで杭を打ち、ポンプ施設等の設備を計画していくこととなった。

費用対効果は、平成29年の台風で発生した浸水被害と同規模の降雨があった場合、調整池の整備でどの位浸水被害軽減が図れるかについて、コストを算定しながら調査した結果、費用対効果が認められる事業であることが分かった。

問 調整池整備により浸水被害がどの程度軽減されるのか。

答 平成29年台風第21号と同等の降雨があった場合、床上浸水がなくなり、道路冠水程度になるものとして計画を進めている。

問 今後、どのように整備を進めるのか。

答 令和4年度には、実施設計業務、用地交渉、用地買収を進める。鑑定評価額をもとに、契約が済んでいない土地の取得に向けて交渉を進める。



令和元年台風第19号時の排水作業